

**見本版**

**吉田一雄氏 著作**

# 「大館野球史 1部～4部」

- 1部 (No.1～500) 明治、大正、昭和の大館の野球、昭和31年まで
  - 2部 (No.1～98) 他3 老童野球 (現360歳野球) 平成2年40回大会まで
  - 3部 (No.1～102) 他2 昭和32年～34年、今川敬三の記録
  - 4部 (No.1～42) 他3 早起き野球史 昭和56年まで
- その他8号 大館ロートル40周年、秋田商業センバツ記録  
大館鳳鳴今年こそ甲子園など

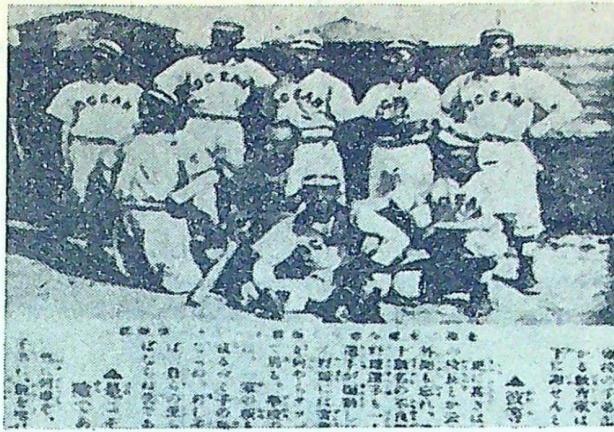
※ 4部で、合計750号の大作

一般財団法人 大館市スポーツ協会作成

# 「大館野球史1部 第1号」 (昭和55年2月21日)

1部は、「明治～昭和32年までの野球史、石戸四六」編 (1～500号)

大館市立第一中学校



後方より小山田、高橋、立石、前方より会長、下河原、伏見、予田の各氏

二列目右側が奈良直太郎

## 大館野球史

①

55.2.21

に波及。

いられない。

し、横手中を5対2で降して初勝利を飾っている。

○：記念すべき大館中の初勝利のメンバーは次のとおりだった。①右岡庄五郎②小林清③長山頼助④諸沢常蔵⑤野呂田桂⑥江田義一⑦柴田俊夫⑧阿部清治⑨小原十兵衛となっている。

○：これに気をよくした大館軍は同年7月25日地元の大中グラウンドへ秋田師範を招き、これを6対4で取り大館強しの名を轟かせた。しかしそのあと来館した秋田中には13対9で鼻をへし折られる。

○：以後四回連続して秋田中が優勝を遂げ、明治37年9月25日の秋田橋本でもなされた秋田中と大館中の試合では17対17の無勝負。翌38年9月11日の第13回大館は没のため大館中2対0秋田中のまま四回でこま

た無勝負に終わった。

○：大館は明治34年から37年の12回の挑戦のうち秋田中が7回優勝している。秋田中を目的にして獅子奮迅的猛挑戦を要求、そのつど大館中はパン

カラ感傷や痛烈な個人攻撃野次が相次ぎ流血事件にならなかつたが、ききだつたと当時の古者のファンが語っていたという

○：そして五年連続優勝すればチャレンジカップは永久獲得という規則があったが、大館中の島文獻と大館中島田復次郎の両審判員が野球ルール上の見解

横手中を13対0の圧倒的な強きで三度目の優勝。翌40年10月2日には再度大中グラウンドへ秋田師範を招き2対0で連続優勝を果した。

○：秋田中は挑戦杯の永久獲得の望みを失つたものと察し、敗れる前に挑戦権を返上したのである。そして明治40年10月11日全道屈指の野球大会がおこな

たが、その戦績をみるにつけて、すでに明治年代に秋田県内でなされた事実、そしてその中に秋田中、横手中、秋田師範と肩を並べて我が大館中が堂々開花している姿をみると、その伝統の古さと近代スポーツへの理解が

ひそんでいたことを感せずには

### 大中草創期の投手・奈良直太郎 北海道の名門オーシャン・クで花開く

上

○：前記のメンバー以外個人トータルなどは残されていないが、それでも明治年間後半にこの挑戦杯は雲があるという声

○：大館中のメンバーは37年から40年代といえは名投手奈良直太郎が大活躍したのではないかと推測される。この人の速球は当時抜群と騒がれ怒ガスを狙って投げ込んだボールが、そのまっぴりガラスは同型をなしていたという逸話の持ち主

○：奈良の在学中大館野球部は東北連征を試み仙台一中、仙台二中、福島中、安積中、磐前中、盛岡中、東奥義塾の各校をこごとく敗った記録もあるが残念なことにスコアやバッテリーなどは不明である。

○：大館の野球史をひもとくと思われ。

《吉田 一雄》

# 大館野球部 明造記録編 (7)

○「正岡規はベースボールの内容(規則)を翻訳した最初の人といわれているが、このときはまだベースボールと名づけていない。それが「野球」となっている。



29

の用語は当時の流行語がそのまま活躍した記録が残っている。有6ま「ベースボール」といわれた4.「ことを見出し、何かしらほえましい気持ちになったことがな55つかい。

○「中馬は前述のように野球と訳されたほかに日本最初の野球書を刊行している。明治三十年七月三十日発行、発行者は大坂の前川善兵衛で東京編者は津高徳次、菊半裁判長とシである。

馬誠宜 雄 庚 吉 郎 吉 郎  
金 常 松 銅 益 政 五 源  
島 木 本 馬 田 屋 松 田  
福 伊 伴 山 中 恩 塚 小 高  
(投)遊(一)(二)(三)(左)(右)  
中馬校長は偉大な大選手なのである。

大学寄附新聞には「赤組は正岡を書かれる際し「デニコー」常規氏と高岡保氏とが交互にトでもから底球、ベースボールはファイルでもから野球。当時の規は有名な発音「はじょうだん」と発した「であり「子規(兼) 随筆編は「一回の試合を得て、同 印象に残っている。

私の祖母が屋から舌はけろ、ロープやバットを出して来「ベースボールだ、これもあるのだ」といった言葉が基に、印象に残っている。

## 中馬夷校長は一高創草期の名選手 「庭球」から「塁球」そして「野球」と名付け

彼の「野球論」が採録されている。球部にはじめて「野球」の文字を使用したという。○「私は「ベースボール」を

訳したと誤って伝えられた俳人でも有ったので「規をまっつあげた人たちの、いわは偉人的なもの憤慨だったのかも知れぬ。明治十九年の工部

○「さて話を中馬夷にもそのう。中馬はじめ「ベースボール」を「庭球」つぎ「塁球」など訳したが明治十七年の

球部にはじめて「野球」の文字を使用したという。○「私は「ベースボール」を

○「私は「ベースボール」を

○「私は「ベースボール」を

○「私は「ベースボール」を



中馬夷

# 「大館野球史 2部 第3号」 (平成元年6月14日)

2部は「老童野球 (現360歳野球大会)」編 (1~102号)、大館ルートル40周年

## 大館野球史

第2部

▶ 3 ◀  
1.6.14

○：第1回大会の最年長は62歳の吉田豊治、最年少は大里謙の20歳で、いずれも花輪クラブだった。

26年第一回から30年の5回大会までの詳細記録は五年前の「大館野球史」です。に記述したので、簡単なスコア、出場数、メモだけにとどめ、第七回大会(第6回大会は昭和31年の大館中心街の大火で中止)から全試合の紹介とした。

▽一回戦  
扇田林友 5-1 獅子ヶ森  
鷹巣信組 5-1 東館ク  
花岡鉦山 11-1 有浦ク  
花輪ク 3-1 早口双子  
ルートル 13-1 田町ク  
ヘヤハーツ 11-8

鷹巣コンドル  
矢立協会(乗権) 小坂鉦山  
八郷ク 5-1  
大館野球協会

▽二回戦  
扇田林友 7-0 鷹巣信組

### 老童野球 ②

扇田林友 7-0 鷹巣信組  
▽三塁打 日沼、高橋  
(八) 和田(扇)  
▽二塁打 伊藤(八) 麓(扇)

▽三回戦  
扇田林友 4-1  
大館機関区  
花輪ク 11-8 花岡鉦山  
ヘヤハーツ 10-2

八郷ク 14-1 矢立協会  
▽準決勝 (鳳鳴球場)  
扇田林友 7-3 花輪ク  
八郷ク 7-4 ヘヤハーツ  
▽決勝 (審判・渡辺)

## 創立大会は比内同士で決勝 八郷クラブが優勝飾る

### 2年目は扇田林友が雪辱

扇田林友 13014000  
1052004 12  
八郷ク  
(扇) 阿部、馬淵、麓  
(八) 長岐吉、乳井、柴  
なっている。

○：当時の人気歌手・岡晴夫が大館劇場で公演。岡はポーカークラブの野球チームを編成して地元チームと試合をとの申し込みがあり、早速老

勝。なお、決勝で本塁打を放った加賀は登録名簿には加賀芳雄(扇林)とあるが、戦績記録は加藤となっている。

○：第2回は27年8月23・24・31日の三日間、一中球場に12チーム参加。年齢は35歳以上、バッテリーは40歳以上の規則改正となる。

▽一回戦  
花輪ク 9-5 鷹巣ク  
ヘヤハーツ

○：扇田(比内町)の二チームが決勝進出。実は扇田がやや有利とみられたが二日間で五試合を連投した馬淵四郎が最後に打たれた。八郷は寄せ集めだが柴田儀三郎捕手(警官)が長岐吉太郎(教師) 乳井郁三郎、偉四郎の三投手を巧くりドしたのが目立ち初優勝(現ルートル)の二人が

童大会の大館主体合同チームが集まり桂城グラウンドで試合がおこなわれ、8対8の六回引き分けとなった。岡晴夫は自らマウンドで完投、人気歌手を無料でみられファンにやんやの喝采を浴びる。岡チームには米沢博(現審判部長)と深井祐丞(現ルートル)の二人が



扇田林友 10-2 獅子ヶ森	扇田林友 9-2 花岡鉦山
扇田林友 10-1 八郷ク	▽決勝
花岡鉦山 3-2 大館巨人	扇田林友
▽二回戦	1 0 0 0 1 0 4
花輪ク 17-11 矢立協会	0 0 0 0 0 0 0
ヘヤハーツ	0
8-7 早口双子	審判 球渡辺(小笠原・太田)
扇田林友 13-1 ルートル	(扇) 馬淵、麓
花岡鉦山 8-0	(花) 福永、武村
北秋地方事務所	▽本塁打 馬淵、麓(扇)
▽準決勝	▽二塁打 馬淵(扇) 小田島(花)
花輪ク 4-2 ヘヤハーツ	
一年目準優勝、二年目優勝の扇田林友、二列目左から二番目が馬淵四郎投手	

吉田一雄

# 「大館野球史3部 第3号」 (平成10年9月26日)

3部は、「昭和32年～34年、今川敬三の記録」編 (1～98号)

## 大館野球史 第3部 ①

吉田一雄

H10.8.26

昭和五十五年一月から同五十九年十二月までの五百回連載された「大館野球史」、平成元年六月から同三年九月まで百二回の「大館野球史・第二部・老童野球」に続き、吉田一雄さん、大館市大町IIの「大館野球史・第三部」がいよいよスタートする。第二部は昭和三十一年で終わっている。「大館の野球が全盛期を迎えるのは昭和三十年代」と語る吉田さんが、三十二年から現在までの北鹿地区の野球史を貴重な資料とともにまとめる。

昭和三十三年は、前年大館一中が全県準優勝したエース・石戸四六が秋商・古城監督の目にとまり、東北初の越境選手として秋商野球部に入部したが、誰も石戸が秋商を甲子園に導くと思わなかった。当時県内では秋田、秋商以外に甲子園出場は無かったが、秋商は巻き返しを狙っていた。その中に選ばれたのが石戸であった。大館の野球が盛んになったのはこの頃からであった。

### 昭和32年

昭和三十三年は、前年大館一中が全県準優勝したエース・石戸四六が秋商・古城監督の目にとまり、東北初の越境選手として秋商野球部に入部したが、誰も石戸が秋商を甲子園に導くと思わなかった。当時県内では秋田、秋商以外に甲子園出場は無かったが、秋商は巻き返しを狙っていた。その中に選ばれたのが石戸であった。大館の野球が盛んになったのはこの頃からであった。

全県大会は秋田商と対戦、秋商はのちに日石で二年連続の都市対抗を制し、プロの大洋では完全試合を達成した佐々木吉郎投手。鳳鳴は木山舞幸で、七回まで1-1の投げ合いが続いたが、八回に力尽きて4点を奪われた。しかしその善戦は見

一週間の合宿をしたが実らず。

- ◇一回戦
- 角館 11-1 毛馬内
- (毛)阿部-石川
- ▽二塁打 湯沢(毛)
- 投手 7-2 花岡工
- (花)佐々木宏一 佐藤
- 秋田工 5-3 花輪
- (花)高杉-三ヶ田
- 小坂 10-2 船川水
- (小)杉本-沢口
- ▽三塁打 山台、山田
- (小)佐々木-山台(小)
- ▽二塁打 山台(小)
- 短大付 3-1 鳳鳴
- (鳳)木山、王前-原
- ▽三塁打 穴森(鳳)

た。選手名は関係分のみ

### 春・鳳鳴 県北制するも秋商に惜敗

### 夏・鷹巣小坂 二回戦で敗退

事だった。

- 鷹巣農 6-0 湯沢
- (鷹)戸沢-草野
- ▽三塁打 戸沢(鷹)
- ▽二塁打 成田、泉
- (鷹)
- ◇二回戦
- 短大付 6-0 小坂
- (小)杉本、佐藤-沢

大館林友6-0秋北バス

- 秋田市立6-4 鷹巣農
- (鷹)戸沢、金沢-草野
- 北鹿地区では小坂と鷹巣農が二回戦で敗退、鳳鳴は前年に続いて早稲田から安部仁孝投手を招き

大館林友5-2雷神ク

春の大館市民野球大会は、五月上旬から行われたが大館林友が圧倒的な強さで優勝。準優勝のクラウンは旧食検とレストランの当時としては珍しい混合チームで注目された。

- ▽二回戦
- タイモン9-1城北ク

全労組北鹿地区野球大会は、六月一日から行われた。大館ブロックを勝ち抜いた大館林友、秋北バスは小坂で行われた県北大大会に出場。

- ▽準決勝
- 秋北バス5-0 鷹巣農
- (鷹)平岡-阿部
- (秋)梶原-川口
- 大館林友1-0 小坂鉦山
- (延長二十三回)
- (大)塚本、江坂、滝川-浪岡、梅津
- (小)小野、佐々木-山田
- ▽二塁打 塚本、梅津

四時間半、延長二十三回を両軍1点をめぐる攻防の好ゲーム。小坂は十二安打を放ったが大館の三投手のリレーにかわされ、決勝点は成田毅の内野安打を滝川が送り、三番梅津がレフト線に決勝打を放って劇的なサヨナラ勝ちをした。

この年七月、石田博英代議士が岸内閣の官房長官から初の労働大臣に就任、郷土入りした石田氏を囲んでの祝賀会が北鹿各地で開かれた。

※「大館野球史」は今後週一回、不定期に連載します。



# 「大館野球史 4部 第3号」 (平成14年8月23日)

4部は、「早起き野球史 昭和36年~60年」編 (1~42号)、番外編2

## 大館野球史

### 第4部

吉田一雄

S. 23

常盤木町 9-8 岩沢  
活版 逆転サヨナラ3点  
本塁打で逆転勝利。相  
手の岩沢姓に打られた  
岩沢の心境は複雑だっ  
た。運輸大町は同  
点の最終回、大町が一  
死満塁から越前和夫が  
右中間長打でサヨナラ  
勝ち。大町は残る一試  
合、長谷川木工との対  
戦で三回、深井経之の

昭和三十六年第一回  
大館早起き野球記録。

秋田相互 13-0 栄町

斉吉 6-1 常盤

正札 9-6 秋田

ヤン 7-0 羽後

北鹿酒造 5-1 長谷川

赤舘 7-3 岩沢

大館 4-4 日本

大館 3-0 日本

### 早起き野球史

⑥

日通 14-4 秋田  
栄町 10-1 羽銀  
同、常盤木町は岩沢久  
赤舘町 3-1 正札

### 富樫清(ヤキ) 2試合完封

#### 時間切れ、大逆転相次ぐ

田投手が完封。宿敵同  
士の大町-中劇は5対  
1で迎えた五回、中劇  
の時刻で終了だが、当  
時は七時終了時点で決  
めた。一回戦で秋相に  
切の、トナメント十  
三チーム最後の切符を  
つかんだ。



常盤木町 5-4 秋田  
相互の継投策で逃げ切っ  
た。赤舘-正札は正札  
・本田と赤舘・石田の  
対戦。赤舘大町の  
適時一塁打などで快勝  
した。秋田相互-常盤  
木町戦は4-4で迎え  
て逃げ切った。ヤン  
キースは唯一のクラブ  
チーム。主戦・富樫清  
は斉吉を散発2安打7  
奪三振で封じ、二試合  
連続完封の快挙。ベス  
ト8進出の原動力とな  
った。斉吉の先発武  
田投手は5安打に抑え  
たが、金得点が8個の  
エラー絡みと気の毒な  
敗戦だった。ベスト8  
には北鹿酒造、赤舘、  
常盤木町、閩屋会、大  
町、中劇、ヤンキース、  
日通が勝ち進んだ。

早朝五時半開始で時お  
り濃霧に悩まされた昭  
和三十六年の第一回大  
館早起き野球大会

(昭和20年12月30日第3種郵便物認可)

(昭和20年12月30日第3種郵便物認可)